

令和4年度

広報

このまちを、もっと好きになる

決算
特別号

ふくちやま

Fukuchiyama City Public Relations

令和4年度の
決算をお知らせ
します！

変わる時代に幸せを生きるまちづくりをめざして

令和4年度決算トピックス

P.2-3 新型コロナウイルス感染症対策、物価高騰対策 など

P.4-5 何歳からでも学べ、
地域の中で生きがいを持ち続けられるように
竜王戦福知山城対局、新文化ホール検討委員会 など

P.6-7 いつまでも自分らしく 暮らしていけるように
誰一人取り残さない スマートシティをめざして
キャッシュレス決済アプリ「ふくぽ」、アクティブシティ など

P.8-9 安心して出産、子育てできる環境づくり
子どもの成長を育む多様な学びの場づくり
子育て支援拠点「りとるハピネス」開設、中学生短期留学事業 など

P.10-11 “今”を大切にしながら、次の世代へつないでいく
廃校活用、エネルギー・環境基本計画、大江地域の内水対策 など

コロナ禍や物価高騰で 大きな影響を受けた 市民の暮らしを支える取り組み

子育て世帯や非課税世帯など 16,415世帯に給付金を支給

【約4億5114万円】

コロナ禍や原油価格、電気・ガス料金などの高騰の影響を受けている世帯の生活を支援するため、非課税世帯や中学生以下の子どもがいる世帯に、1世帯につき1万5千円、世帯人数ひとり当たり5千円の給付金を支給し、生活負担の軽減に即効性のある支援を行いました。

子どもがいない世帯や課税世帯 18,103世帯にギフトカードを支給

【約2億117万円】

課税世帯や中学生以下の子どもがいない世帯にも、1万円のギフトカードを支給し、物価高騰の影響を受けた市民生活を支援しました。



変わる時代に 幸せを生きる まちづくりをめざして

『まちづくり構想福知山』スタート
20年後も、市民が幸せを
実感できるまちをめざして

令和4年度当初予算では、「変わる時代に幸せを生きるまちづくり予算」として、喫緊の課題だった新型コロナウイルス感染症に対応しつつ、『まちづくり構想福知山』で掲げるまちづくりを進めるため、新規・拡充事業にも積極的に取り組み、432億円の予算を編成しました。

また、事業の取り組み状況や数値目標の達成状況を、外部の視点で確認・検証する施策レビューを実施し、『まちづくり構想』の着実な推進を図りました。

コロナ禍や物価高騰に 10回の補正予算で柔軟に対応

令和2年度から続いた新型コロナウイルス感染症に加え、ロシアによるウクライナ侵攻や円安を契機に進んだ原油価格や物価の急激な高騰に対応するため、一般会計では10回もの補正予算を編成しました。激変する社会にあって、経済対策と市民生活の支援に柔軟に取り組みしました。

コロナ禍で修学が困難な 福知山公立大生の授業料を減免 66人の修学を支援

【約1206万円】

長引くコロナ禍により、経済的な理由で修学が困難な状況にあった福知山公立大学の学生に対して、年間授業料の3分の1を減免し、66人の修学を支援しました。

物価高騰で大きな影響を 受けた市内中小企業者に 支援金を支給 2142事業者を支援

【約2億3351万円】

原油価格や物価の高騰で大きな影響を受けた市内の中小企業者や団体に対し、事業継続のため広く利用できる支援金として、法人・団体に15万円、個人事業主に8万円を支給し、2142事業者を支援しました。

新型コロナ陽性となった人などに 自宅への配食サービスを実施 約1800世帯を支援

【約4411万円】

新型コロナウイルス感染症の陽性者で、自宅療養者と濃厚接触者等として自宅待機を要請された人などに、無料で昼食夕食2食分の配食サービスを実施。約1800世帯、約3万8400食の利用がありました。

自宅療養・自宅待機中の生活の不安解消を図りました。

令和4年度の決算額や実質単年度収支、経常収支比率、健全化判断比率については、12ページでお知らせしています。



竜王戦・福知山城対局、ふたたび 今をときめく藤井聡太竜王が来福 【約1639万円】

令和4年11月、将棋界最高位のタイトル戦第35期「竜王戦」（主催：読売新聞社、日本将棋連盟）の第4局が福知山城で開催。将棋界のスーパースター・藤井聡太竜王と、平成30年11月の対局以来2度目の来福となった挑戦者・広瀬章人八段が盤上で熱い戦いを繰り広げました。

市内の将棋団体や商業観光団体と実行委員会を組織し、様々な関連イベントを開催。市内グルメのブランド化や福知山城の対局室フォトスポット展示などで、竜王戦後も注目を集めました。

平成30年、令和4年と2度の竜王戦を実施したことで、市内の子ども将棋教室は満員になり、私立学校では強豪をめざす将棋部が新たに設立されるなど、将棋文化が市内に芽吹きはじめています。

竜王戦勝負グルメ

竜王戦福知山城対局で棋士の昼食やおやつ候補となった30品を「竜王戦勝負グルメ」としてブランド化。選ばれたメニューは売上が3～4倍になったほか、選ばれなかったメニューもメディアで紹介されるなど、本市の食を広く発信することができました。



両対局者は、子どもたちと交流したのち、前夜祭でファンを前に意気込みを語りました。竜王戦後の対局室では、竜王戦さながらに「子ども竜王戦福知山将棋大会」を開催しました。

福知山城対局に関する
メディア掲載件数 **850** 件

広告換算額 約 **9.4** 億円



第35期「竜王戦」七番勝負第4局（福知山城対局） 初手の様子

何歳からでも学べ、地域の中で

生きがいを持ち続けられるように

みんなが利用したい文化ホールをめざして 新たな文化ホール整備に向け基本構想を策定

【約170万円】

現在の厚生会館は開館から約60年が経過しており、現代的な舞台演出に対応した音響性能や舞台機能を有していないことから、舞台芸術に対応した施設整備を求める声が高まっています。



福知山市厚生会館

本市では、令和4年度から、地域の文化関係者や有識者などで構成する検討委員会を設置し、新文化ホールについて議論を重ねました。加えて文化関連団体55団体へヒアリングしたほか、市民ワークショップを5回開催し、延べ75人が自由に意見を出し合いました。またWEBアンケートや意見募集を行い、広く市民から270件の意見や回答が寄せられました。これらの意見を踏まえ、検討委員会で検討し、5回の議論を経て「福知山市新文化ホール基本構想」を策定しました。その後、2回の議論を行い、令和5年7月に「新文化ホール基本計画案」を策定しました。



基本構想はこちらから
ご覧いただけます。

北近畿初の大学院設置へ
福知山公立大学を
北近畿の「知の拠点」に
【約4億2301万円】

令和4年度には、地域情報学研究所の大学院開設に向け、新棟建設や既存棟の改修などを支援しました。大学院は令和5年9月に文部科学大臣から認可を受け、令和6年4月に開設します。

地域公民館・体育館を
すべて午前から開館
より使いやすい場所へ
【約535万円】

福知山市市民憲章推進協議会設立30周年記念、市制施行85周年の一環として、令和4年11月に「市民憲章推進第56回全国大会福知山大会」が開催されました。「次代を担う若者にエールを」をテーマに、多くの参加者と「共に幸せを生きる」、本市の市民憲章の理念を再確認しました。

令和3年度にオープンした「ふくちやま電子図書館」の電子書籍を、令和4年度に約5千コンテンツ増やしました。年間電子書籍貸出数は約18万4千回、年間閲覧数は約36万8千回で、ともに目標を上回り、多くの利用がありました。（※）本市と同じ電子図書館システムを導入する全国の337図書館の中で、全国1位になりました。



市民憲章推進全国大会を
福知山市で開催
【約310万円】



令和5年2月、市内の市立公民館10館が初めて開催した合同イベントでは、テレビの教育番組などで知られるたにぞうさんのコンサートを実施。子育て世代に公民館の魅力を発信しました。

となるよう、地域の食材を使った料理教室やノルディックウォーク、防災講座、キャンプ体験、スマホ講座など多様な講座を実施しました。

いつまでも自分らしく暮らしていけるように



「福知山 KENPOS」アプリでは、毎日の歩数や行動の記録、健康教室・イベントへの参加ごとに、ポイントを貯めることができます。詳しくは二次元コードから。



令和4年11月20日に、福知山マラソンのプレイベントとして実施したアクティブフェスタでは、元オリンピックの中村友梨香さんのランニング教室を開催しました。

貯めたポイントは1ポイント1円で「ふくぽ」に交換できる



心も身体もアクティブに。本市オリジナルアプリに3647人が登録

【約1099万円】

アクティブ（活動的、能動的）で、ウェルビーイング（身体的・精神的・社会的な充足感が満ちている状態）なまちづくりをめざし、民間企業や団体と連携して取り組みを進めました。

また、福知山マラソンと連携したウォーキングイベントを開催し、幅広い年代へ健康づくりを呼びかけました。

さらに、毎日のウォーキングや行動の記録、健診受診などでポイントが貯まる独自のアプリ「福知山 KENPOS」を新たに導入し、令和5年3月までに3647人の登録がありました。



市内介護事業所に勤務する介護職員に最大60万円の定着支援金で介護人材確保へ

【約1233万円】

高齢化が進み、課題となっている介護人材の確保のため、これまでの制度を見直し、新たに市内介護事業所で継続勤務する人に3年間で最大60万円の定着支援金を支給し、37人の人材確保につなげました。

障害のある人の新規就労支度金制度を39人が利用
障害のある人の就労は1001人に

【約541万円】

障害がある人もいきいきと働けるまちをめざし、新たな制度として、障害のある人の新規就労に、支度金として一人あたり3万円を支給。新規に就労した39人の利用がありました。

また、障害福祉サービス事業所の『ほっとはあと製品』販売会を実施し、工賃向上を図りました。

京都府初 福知山市みんなの多様な性を尊重する条例 を制定

【約70万円】

令和4年4月に制定したこの条例では、性的マイノリティだけでなく、すべての人の多様な性のあり方を大切に、認め合うことを基本理念としています。性的指向や性自認に関する人権侵害を禁止することも定めています。

また、一方または双方が性的マイノリティである2人が人生のパートナーとして日常生活で協力しあう関係であることを公的に証明するパートナーシップ制度も新たに導入しました。



性の多様性への理解を呼び掛けた「レインボーキャンペーン」のポスター

キャッシュレス決済「ふくぽ」約5億円の市内消費を促進 スマホ教室も開催

【約1億4005万円】

スマートフォンを用いた本市独自のキャッシュレス決済システム「ふくぽ」を導入し、消費喚起策として、一人2万円のチャージ金額を上限に25%のプレミアムポイントを付与しました。市内328店で利用でき、約5億円の消費につながりました。

また、65歳以上の市民を対象に、新規にマイナンバーカードに対応したスマートフォンを購入するなど一定の要件のもと、一人あたり上限1万円の購入補助を261人に行ったほか、販売店や各地域公民館で、スマートフォンの使い方講座を実施しました。



令和5年度は、原油価格や光熱費の高騰などにより影響を受けた市内の経済活動を応援することを目的に、「ふくぽ」でプレミアム率25%（購入限度額 1人あたり3万円(3万7500円分)）のデジタル商品券を販売しています。

子育てや介護など26の手続きをオンライン化

【約1191万円】

いつでもどこでも行政手続きができる環境整備のため、オンライン申請の導入を進めています。令和4年度には、子育てや介護に関する26の手続きでオンライン申請の受付を開始しました。今後も対象手続きを拡大していきます。

3地区でICTを活用し地域主体の獣害対策を推進

【約1537万円】

兵庫県立大学の協力を得て、ICT機器を活用した「地域主体の獣害対策」を3地区で取り組みました。令和2年度から実施しているこの取り組みでは、獣害対策に不可欠な「捕獲」と「防除」の成果を可視化することで、地域主体の獣害対策のモチベーション向上を図ってきました。

令和4年度は、農業共済の対象となるような被害はゼロになり、被害面積や被害量の軽減に成功しました。

誰一人取り残さないスマートシティをめざして

三和町川合地域、夜久野町直見地域、大江町毛原地域を獣害対策モデル地区とし、兵庫県立大学とともに、ICTを活用した地域主体の獣害対策を支援しています。



子どもの成長を育む 多様な学びの場づくり



一人一台のタブレット端末を活用した授業では、児童生徒全員に電子図書館のIDとパスワードを付与し、教室にしながら電子書籍を活用した学習を可能にしています。

また、福知山公立大学と連携し、AIを搭載した学習教材の学習履歴データを収集・分析することで、データに基づいた授業の実施や教育活動全体の改善につなげる仕組みの構築を進めています。



**はばたけ世界へ
市内中学生を対象に
短期留学事業を開始**
【約594万円】

広い視野と国際感覚を持ち、国際社会で未来を切り開く人材を育成するため、市内中学2年生を対象に、短期留学事業をスタートし

**全小中学校23校の
ICT環境の整備が終了**
【約1億2715万円】

令和4年度は、市内の全小中学校で、常時授業を行う特別教室や体育館にWi-Fi環境を整備し、一人一台のタブレット端末を活用した授業の幅を広げました。これによりICT教育に必要な環境が概ね整いました。今後は配備した機器をさらに活用できる環境づくりを進めていきます。



令和4年11月にオープンした「りとるハピネス」では、自由に立ち寄れるフリースペースも設置。雨の日も安心して利用することができます。



**子育て世代の
屋内の遊び場所や交流の拠点
「りとるハピネス」を新設**
【約2929万円】

子育て世代の雨天時の遊び場として、また、子育て世代が交流できる場所として、三段池公園総合体育館内に地域子育て支援拠点「りとるハピネス」を開設しました。

平日は、子育てコンシェルジュが子育ての相談に対応するほか、制作や読み聞かせなどのイベントを開催。土日は親子食育教室や地元食材のマルシェの開催などを通して、子育て世代を中心に、多世代交流を生み出す場として利用されています。

また、児童科学館のキッズスペースに遊具を追加し、既存の施設を生かしながら、子どもたちの遊び場としての機能を強化しました。

安心して出産、 子育てできる環境づくり



りとるハピネス

場所：三段池公園総合体育館内
開設日時：月・火・木・金の9時30分～16時
※イベントなどがない土日祝は、子育て世代向けに開放しています。

新生児の95%以上に 聞こえの検査費用を助成

【約216万円】

新生児の先天性疾患の中でも発症頻度が高い先天性難聴を早期に発見するために、検査費用の一部助成を開始しました。

適切な支援で子どもの健やかな成長と安心して育児ができる環境づくりをめざします。

民間保育園などに勤務する 保育士に最大60万円の 定着支援金で保育人材確保へ

【約2911万円】

共働きなどで保育の需要が高まるなか、慢性的な保育士不足の解消をめざし、保育人材確保に取り組みました。保育士をめざす学生に最大60万円の修学資金の貸付を行ったほか、新たに市内民間保育園などに勤務する保育士を対象に、採用後3年間で最大60万円の定着支援金を支給し、令和4年度は15人の保育士の新規就労を支援しました。

また、民間保育園などの保育士が居住する宿舍の借り上げ費用の一部補助制度、保育補助者などを雇用する経費の支援、アドバイザーの巡回相談などを実施し、保育士の就労環境の改善を図りました。

エ給食を実施しました。

ジビエは地元の認証施設で処理された安心安全なものを使用して、1回は本市出身で、福知山ドッコイセ大使の杉本敬三シェフが考案したメニューを提供しました。



ジビエを使用した学校給食では、ジビエに関する学習も行いました。

経済的に支援が必要な 児童生徒約780人の スクールライフを応援

【約973万円】

就学援助を受給している保護者に対し、参考書などの購入、各種検定料金、衛生用品の購入の経費補助として児童生徒一人あたり1万2千円を支給し、学校生活や家庭学習を支援する制度を新設。令和4年度は約780人のスクールライフを支援しました。

学校給食から地域と食文化を 学ぶジビエ給食を実施

【約70万円】

地域の食材や多様な食文化を知る機会を学校給食を通して子どもたちに提供するため、年2回ジビエ



令和5年8月26日に開館した福知山鉄道館フクレル。愛称とロゴは公募し、市内外49人から集まった95件の中から選ばれました。



右)令和4年12月に実施された工エもん鑑定会の結果発表の様子。
左)料理専門誌『料理王国』のセレクション事業で優秀賞に選出された「京都奥丹波カヌレ」



右)グラウンド一面に人口芝が敷かれたS-LAB。オープン記念イベントとして、小中学生を対象に、サッカー元日本代表の加地亮さんのサッカー教室が開催されました。
中央)市内のアウトドアブランドがグラウンドをおしゃれなアウトドア空間に。多くのキャンパーが憧れるキャンプ場になっています。
左)成人式や卒業式などを彩る袴や着物の商品管理物流センターとして活用が始まった旧菟原小。



廃校を地域活性化の拠点に 8校で活用事業を実現

【約1億457万円】

遊休資産となっている小学校跡地の活用を積極的に推進し、令和4年度には、旧菟原小の民間貸付や旧細見小中出分校の大阪・関西万博での活用が決定。また、旧天津小が複合型スポーツ施設「S-LAB」へ、旧公誠小・旧北陵中がキャンプ場「SOMABITO NORTH HILLS」としてグラウンドオープンし、地域の新たな交流や魅力を創出しています。本市の「廃校活用Re活用プロジェクト」は先進的な取り組みとして、現地視察などが相次いでいます。

ふるさと納税寄附 過去最高の3・48億円

【約1億7440万円】

本市の魅力や個性豊かな返礼品の情報発信で福知山ファン拡大をめざすふるさと納税では、寄附額が前年度比約1・1倍となり、過去最高に。返礼品数は305品から450品へと大幅に増加しました。

福知山の工エもんは26品に 「食の魅力」を発信し 稼げる農業を支援

【約694万円】

福知山の食のブランド化をめざし、平成30年度から実施している「ふくちやまの工エもん」鑑定会では、4品を新たに認定。また、料理専門雑誌のセレクションに出品し、1品が優秀賞になるなど高い評価を受けました。工エもん認定品の販売や商談会への参加のほか、稼げる農業者育成講座の開催や環境にやさしい米づくりに対する支援など、農作物の高付加価値化を図りました。

福知山鉄道館フクレル 令和5年度開館に向け工事

【約3億4173万円】

鉄道とともに発展した福知山の歴史の継承と観光誘客の拠点として福知山鉄道館フクレルの建設工事を実施しました。令和5年8月の開館から10月末までに、1万3170もの人が訪れ、子ども連れや鉄道ファンを中心に人気を集めています。

次の世代へつないでいく

ゼロカーボンシティ実現へ エネルギー・環境基本計画を 新たに策定

【約7746万円】

2050年温室効果ガス排出量実質ゼロ実現をめざし、指針となる『福知山市エネルギー・環境基本計画』を策定しました。また、公用車4台を災害時の非常用電源にもなるEV等に更新し、EV普及に向けて市内2か所に急速充電設備を設置しました。

夜久野地域をモデル地区に 循環型の森林整備をスタート

【約1246万円】

森林資源は木材生産だけでなく、温室効果ガスを吸収する、土砂災害を防ぐなど多様な機能を持っています。高齢化した人工林を伐る、使う、植える、育てる、を繰り返す、森林資源を持続的に活用する取り組みを夜久野地域をモデル地区として開始。令和4年度は1・23ヘクタールを再造林しました。

消防団の処遇改善へ 年額報酬や出勤報酬を拡充

【約1億2779万円】

地域防災を担う消防団は、災害の多様化・大規模化や団員数減少で、負担が大きくなっています。消防団員の処遇を改善するため、新たに出勤報酬を創設し、年額報酬を増額しました。また、視認性・耐水性の高いレインウェアなど装備の充実を図りました。

大江地域の内水対策を実施 令和5年度の効果発現へ

【約4億9898万円】

大江町公庄く河守地区を内水被害軽減対策のモデル地区として、排水ポンプや調節池の整備を進めてきました。

令和4年度には、毎秒1トン排水できるポンプ施設の建設と公手川の改修工事を行いました。令和5年度の出水期までに毎秒3トンの排水が可能になりました。また、水害時に備え、救命ボートやポータブル充電器を大江支所や各防災支部に配備しました。

階級	班長	団員
改正前	31,500円	22,500円
↓	+5,700円	+14,100円
改正後	37,200円	36,600円

上)消防団員の年額報酬の比較表
左)大江美河橋付近に建設された排水ポンプ施設(令和5年7月撮影)



上)オンサイトPPAとは、電力利用者の施設敷地内に発電事業者が太陽光パネルなどを設置し電力を供給する仕組み。令和4年度は南陵中学校と夜久野支所に太陽光パネルを設置しました。写真は南陵中学校です。



長引くコロナ禍や世界情勢の変化に 対応しながらも健全な財政を堅持

問 財政課 (TEL 24-7035 ・ FAX 23-6537)

令和4年度決算の詳細は、
右の二次元バーコードからも
ご覧になれます。



実質収支は11.4億円の 黒字

一般会計の歳入歳出決算規模は、新型コロナウイルス感染症関連事業や原油価格・物価高騰緊急対策関連事業に係る予算に加え、中・北部地域共同消防指令センター整備事業やつつじが丘・向野団地建替事業などの大型事業が本格化し、投資的経費が増加したことなどにより、歳入・歳出とも過去2番目の大型決算となりました。

決算収支としては、全税目が増収となり、市税収入

が大きく増加したことに加え、新型コロナウイルス感染症関連事業や原油価格・物価高騰緊急対策関連事業に係る財源として、地方創生臨時交付金を活用したことなどにより、一般会計の実質収支は11.4億円の黒字となりました。

※実質収支…歳入(市に入ったお金)から歳出(市が使ったお金)を差し引いた額から、さらに「翌年度(令和5年度)に繰り越したお金(財源)」を差し引いた額のこと。

光熱費高騰などの影響で経常収支比率は上昇も、 健全化判断比率は改善

経常収支比率とは、財政構造の弾力性を表す指標です。令和4年度は、前年度88.9%から3.9ポイント上昇し、**92.8%**でした。普通交付税などの増額措置がなかったことや原油価格の高騰による光熱費の増加などが影響しています。

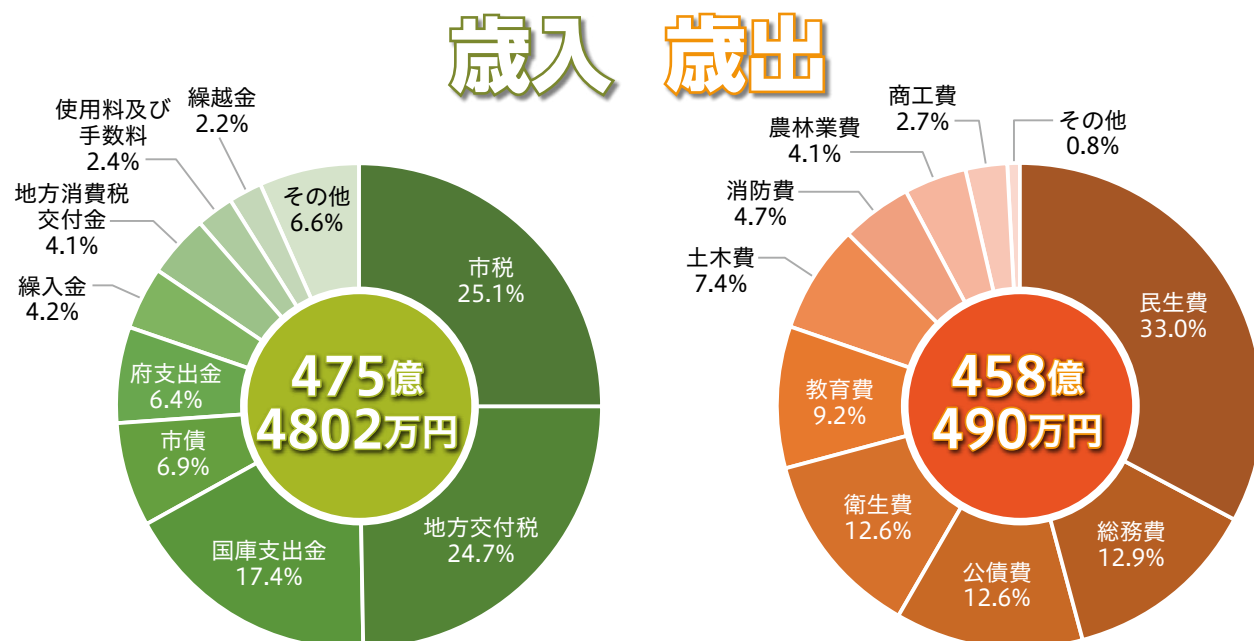
また、財政が健全かどうかを判断する目安となる健全化判断比率のうち、**実質公債費比率は、0.3ポイント改善し9.6%、将来負担比率は4.7ポイント改善し33.8%**となりました。

一般会計の基金残高(市が将来に備えるための貯

金)の総額(※定額運用基金除く)は、将来の公債費抑制のために減債基金を取り崩したことなどにより、前年度から5.5億円減り、108.4億円となりました。

一般会計の市債残高(市の借金)の総額は、定期償還に加えて繰上償還を実施したことにより、前年度から23.0億円減り、450.0億円となりました。

これらの指標から、本市の財政は堅調だと言えますが、原油価格・物価高騰などで歳出が増加傾向の中にあり、不斷の努力で健全な財政の堅持に引き続き取り組んでいきます。



※うち翌年度に繰り越した財源は6億630万円